

日本簿記学会ニュース

No. 64:12/2017

《大会の経過報告》

第33回全国大会は、平成29年8月24日(木)から26日(土)に明治大学(準備委員長:田中建二氏)にて開催されました。詳しい内容は本紙全国大会記をご覧ください。

《大会・部会のご案内》

第34回関西部会は平成30年5月19日(土)に甲南大学にて、第34回関東部会は平成30年6月に駒澤大学にて、第34回全国大会は平成30年8月23日(木)から25日(土)に西南学院大学にて各々開催される予定です。

《第33回全国大会正会員出席者状況》

第33回全国大会への正会員の出席者の状況は以下の通りでした。

	全	体	大学関係者	高等学校	専門学校	職業会計人	その他
参加者数	202名		166名	18名	5名	13名	6名
比率	100.0%	(注)	79.8%	8.7%	2.4%	6.3%	2.9%

(注) 各区分の比率を小数点第1位未満で四捨五入しているため、僅少差0.1%が生じておりますが、便宜上、表示しておりません。

《役員選挙・役割決定について》

日本簿記学会第33回全国大会において、新役員が次のように決定いたしました(五十音順)。

会長:佐藤信彦(熊本学園大学)

副会長:橋本武久(京都産業大学)

原俊雄(横浜国立大学)

理事:【大学関係】 池田公司(甲南大学) 大会・部会 上野清貴(中央大学) 大会・部会
梅原秀継(明治大学) 学会誌 浦崎直浩(近畿大学) 会務
倉田幸路(立教大学) 学会誌 坂上学(法政大学) ホームページ
佐々木隆志(一橋大学) 研究 清水泰洋(神戸大学) ホームページ
戸田龍介(神奈川大学) 研究 成川正晃(東北工業大学) 会務
本田良巳(大阪経済大学) 学会ニュース

【高校関係】 加瀬きよ子(東京都立江東商業高等学校) 会員

【専門学校関係】 岡部隆男(全国経理教育協会・郡山学院) 会員

【職業会計人関係】 野村裕(税理士) 会計

監事:泉宏之(横浜国立大学) 北村信彦(公認会計士)

幹事:石光裕(京都産業大学) 小澤康裕(立教大学) 中村亮介(筑波大学)

兵頭和花子(兵庫県立大学) 渡邊貴士(亜細亜大学)

なお、会長メッセージは学会ホームページに掲載しております。

《ホームページ委員会》

ホームページ委員会が下記の通り決定いたしました。

委員長:清水泰洋(神戸大学) 委員:小澤康裕(立教大学) 坂上学(法政大学)

《学会賞審査委員会》

学会賞審査委員会が下記の通り決定いたしました。

委員長：泉 宏之（横浜国立大学）

委員：大学 橋本武久（京都産業大学） 松本敏史（早稲田大学）
高校・専門学校 粕谷和生（横浜市立横浜商業高等学校）
職業会計人・その他 藤井禎晃（公認会計士）

《学会誌編集委員会》

学会誌編集委員会が下記の通り決定いたしました。

委員長：梅原秀継（明治大学）

委員：倉田幸路（立教大学） 小阪敬志（日本大学） 齊野純子（関西大学）
坂上 学（法政大学） 島本克彦（大和大学） 菱山 淳（専修大学）
丸山佳久（中央大学）

《平成 29 年度日本簿記学会学会賞および奨励賞について》

平成 29 年度日本簿記学会学会賞および奨励賞は、審査の結果、ともに授賞対象なしとされました。

《日本簿記学会学会賞審査委員会からのお願い》

学会賞審査委員会では、会員の皆様からの学会賞候補にふさわしい著書等のご推薦をお願いいたします。推薦の手続等については、学会ホームページをご確認ください。また、推薦書籍等については5部ご提出ください。

日本簿記学会学会賞審査委員会

《日本学術会議協力学術研究団体への申請について》

本学会の日本学術会議協力学術研究団体への申請が全国大会で承認されたため、橋本武久理事を中心に申請手続きが進められております。

《全国大会記》

日本簿記学会第 33 回全国大会記

明 治 大 学 田 中 建 二
準 備 委 員 長

日本簿記学会第 33 回全国大会は、8 月 24 日（木）から 26 日（土）までの 3 日間にわたり明治大学駿河台キャンパスで開催されました。本大会では、統一論題を「資産会計と複式簿記－財務諸表の表示と勘定科目をめぐる－」と設定しました。大会第 1 日目の 8 月 24 日には理事会、学会賞審査委員会、選挙管理委員会が開催されました。

第 2 日目の 25 日の午前には、高校簿記教育懇談会が開催され、安藤英義氏（専修大学）による講演「簿記の研究・教育の空洞化」が行われ、高等学校教員を中心に多くの参加者を集めました。午後からは、会員総会、工藤栄一郎氏（西南学院大学）による学

会賞受賞講演の後、統一論題報告が行われました。

統一論題報告では、司会の田代樹彦氏（名城大学）による趣旨説明の後、①中村英敏氏（中央大学）による「商品売買取引における簿記処理の再検討」、②渡邊雅雄氏（明治大学）による「予想損失モデルに基づく金融資産の減損処理と複式簿記」、③宗田健一氏（鹿児島県立短期大学）による「新リース会計基準における簿記処理と表示・開示」、④齊野純子氏（関西大学）による「複式簿記と財務報告の乖離－その意味を求めて－」、という 4 つの報告が行われました。

続いて、菊谷正人氏（法政大学）の司会の下、簿記理論研究部会報告「簿記における計算構造の総合的研究」（部会長：上野清貴氏，中央大学），簿記教育研究部会報告「高大連携の視点から考える簿記教育」（部会長：加瀬きよ子氏，東京都立江東商業高

等学校)、簿記実務研究部会報告「収益会計の現状と課題」(部会長:梅原秀継氏,明治大学)の3つの報告が行われました。その後、リビティタワー23階の岸本辰雄・宮城浩蔵ホールにて懇親会がなごやかに開催されました。

第3日目の26日には、3つの会場で合計7つの自由論題報告が行われました。第1会場では、池田公司氏(甲南大学)の司会の下、水谷文宣氏(関東学院大学)による「IoTによる帳簿と募金箱の連動」と村上翔一氏(明治大学)による「所有者における電子マネーの会計処理」という報告が、また、佐々木隆志氏(一橋大学)の司会の下、竹島貞治氏(金沢大学)による「会計事象の関係性に基づく複式記入の説明」という報告が行われました。第2会場では、橋本武久氏(京都産業大学)の司会の下、海住信行氏(高田短期大学)による「『教養としての簿記』の指導教材と指導法の研究」と中野貴元氏(全国経

理教育協会)による「『民間簿記学』・『小學校用簿記学』における導入教育としての単式簿記法」という報告が行われました。第3会場では、島本克彦氏(大和大学)の司会の下、日高宏氏(元日産ディーゼル工業)による「立ち上がり当初の簿記の記帳方法と借方貸方の由来」と西村昭一郎氏(龍谷大学)による「商品勘定3分割の意義」という報告が行われました。その後、休憩を挟んで、統一論題討論が行われ、座長の田代樹彦氏を中心に4名の報告者およびフロアの参加者を交えて活発な討論が行われました。

非常に厳しい日程の中、すべてのプログラムをほぼ予定どおりに進めることができました。時間的制約の中での進行にご協力いただきました司会者・報告者の先生方に厚く御礼申し上げます。また、厳しい残暑にもかかわらず、大会にご参加いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

《ずいひつ》

それは不幸な出会いでした

西南学院大学 工藤栄一郎

日本簿記学会に参加して、いろいろな先生の研究報告を聴くたびに「この先生はなんと楽しそうに簿記のことを語るんだろう」と感動的な思いを感じます。そして、「きっと簿記との楽しい出会いがあったのだろうな」と想像するのです。というのも、私の簿記との出会いは決して愉快的なものではなかったからです。

1981年の春のことです。勉強が好きでもなく、ましてできもしなかったのですが、実家が商売をやっていたということもあって、商学部の学生になりました。高校の3年間は青春を謳歌し、卒業後の1年間予備校で受験勉強をして大学デビューをする友人たちとは違い、浪人してまで大学に行こうとする気概さえ持っていない消極的な18歳の春を過ごしていたのです。こんな無気力な大学新入生の人生を変えるような力を、簿記が持っているわけはありませんよね。

それでもさすがに最初の1週目はほとんどの授業に出ました。そこで簿記との不幸な出会いがあったわけです。教科書は沼田嘉穂『簿記教科書』(新版)

でした(いまも手元にあります)。その小序に「簿記は本を読んで覚える学科ではなく、訓練によってその本質と機能を体得する学科である。」と書いてありました。その部分をつぶさんばかりに強く鉛筆で黒く塗っています。まさか大学で「訓練によって……体得する」というような記述は、勉強が嫌いかつできない私のような者にとってさえ違和感(反感といったほうがいいかもしれません)を持たせるのに十分なものでした。

教壇に立っていたのはお年寄りの先生でした(18歳から見れば60歳を超えた人はみんなおじいさんですね)。その老教授は、「簿記はペンとそろばんを持って学習するものだ」と言われたように記憶しています。大学の先生ですから、簿記の意義や学問的魅力についても何かおっしゃったのかもしれませんが、残念ながら、私にはとうてい届くはずもない声でした。そしてその翌週からぼくは簿記の授業に出なくなりました(まあ、簿記だけじゃないんですけど)。

その後、あっという間に時間は過ぎ去り、2ヶ月にも及ぶ長い夏休み(昔の大学では2ヶ月近くもありましたよね)も終わりに近くなって、前期試験が迫ってきました(これまた昔の大学では試験は休み明けに行われていました)。簿記は必修科目だったので、これを落とすと卒業できないというくらいの

ことは理解していました。試験くらいは受けようと教科書を引っ張り出してみました。でも、何が書かれているのか皆目理解できません。日本語で書かれているにもかかわらずです。

「資産は左側（借方）に、負債は反対の右側（貸方）に。」ふむふむ。これは筋が通っています。でも「費用は借方に。」なんですとお！資産は自分にとってのものだけど、費用はその反対じゃないか。なんでそれが同じほうに書かれるんだろうと、混乱しました。損益計算書の当期純利益は赤で書くけど、貸借

対照表は黒いペンで書くということも訳がわかりません。こうして、ぼくの最初の大学1年間と簿記はむなしく過ぎ去っていったのです。

その後の長い物語は省略するとして（聞きたいでしょうけれど）、33歳の春に、（とても恐ろしいことに）私はかつて学生として座っていた教室に戻り、かつて自分が理解できなかった（そしてどの本にも書かれていなかった）簿記に「筋道」を無理矢理にでもくっつけて考え、そしてそれを教えようと息巻いて、黒板を背にして立っていました。

《日本簿記学会会則改正について》

日本簿記学会会則に記されている学会の英文記名について下記の通り改正がなされました。

改正後	改正前
昭和60年10月12日制定 平成29年8月25日最終改正	昭和60年10月12日制定 平成27年8月29日最終改正
(名称) 第1条 本会は、日本簿記学会と称する。なお、英文記名は、The Japan Boki Association (Accounting Theory, Education and Practice Association) とする。	(名称) 第1条 本会は、日本簿記学会と称する。なお、英文記名は、The Japan Boki Association (Accounting Theory, Education, and Practice Association) とする。
(附則) この会則は平成29年8月25日より実施する。	(附則) この会則は平成27年8月29日より実施する。

平成28年8月19日以降、平成29年8月23日までに申し込まれ、8月24日開催の理事会で入会が承認された新会員は以下の通りです。

入会会員名簿

(名簿の番号は会員番号)

番号	氏名	所属機関	番号	氏名	所属機関
2017-001	坂根 純輝	九州情報大学経営情報学部	2017-011	舩津丸 仁	有限責任監査法人トーマツ
2017-002	付 馨	京都学園大学経済経営学部	2017-013	橋本 宜幸	新日本有限責任監査法人
2017-003	太田 荘一	公 認 会 計 士	2017-014	櫻井 康弘	専 修 大 学 商 学 部
2017-004	児島 記代	児島記代税理士事務所			〈準会員〉
2017-005	吉田 信	岡 山 商 科 大 学	2017-008	首藤 洋志	名古屋大学大学院経済学研究科
2017-006	高橋 司	税理士法人高橋会計事務所	2017-009	高橋 琢也	駒澤大学大学院経営学研究科
2017-007	片田 章幸	長野県小諸商業高等学校	2017-012	鶴田 敏郎	明治大学大学院会計専門職研究科
2017-010	平田 沙織	長岡大学経済経営学部			

編集後記

新会長のもと、新理事会体制が始動しました。幹事もメンバーが少し入れ替わり、心機一転、学会員の皆様のお役に立てるよう活動してまいります。

(石光・小澤・中村・兵頭・和田・渡邊)

発行所
編集兼
発行人

日本簿記学会事務局

事務連絡所

〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-1-15
株式会社白桃書房

e-mail boki@hakutou.co.jp

URL <http://www.hakutou.co.jp/boki/>